



Tatsuya Nii



Takaaki Nagatani



Masaki Kamimura



Yoshihisa Yamamoto



Takuya Yoshimoto



Masahiro Akiyama



Shinya Yamauchi



Yoshihiro Izumi



Shunsuke Mishima



Hiroshi Fukuda



Hiroaki Kato



Katsuya Manabe



Takushi Sakaguchi



Hironori Aoki



Kenichi Honda



Shuji Tanabe



Takeshi Takanezawa



Yasuyuki Nakahira



Minoru Iida



Hiroshi Nagayanagi

# 技科大の顔

06

2024年 冬号

同窓会と以下の在学生が協力し、制作・配信しています

機械工学系 代田 智教  
電気・電子情報工学系 内藤 初月  
情報・知能工学系 梶浦 真帆  
建築・都市システム工学系 末廣 杏月



## 新居 達也

Tatsuya Nii

2011年 機械システム工学専攻 修了  
飯田由明 研究室

1987年 徳島県生まれ  
阿南高専 卒業

2011年 株式会社IHI 入社

2017年 同社  
回転機械エンジニアリング 出向

現在 同社  
生産センター 横浜工場  
品質管理グループ 主査

阿南高専から編入し、飯田先生の研究室でMicro Air Vehicleの研究をしたのちにIHIに入社しました。本業は遠心圧縮機などの産業用回転機械の品質管理エンジニアです。最近では「魔改造の夜」のチームリーダーをしたり、スタートアップ企業で兼業したり、アート作品の技術支援を行ったり、何が本業なのか分からない感じです。社会人生活を振り返ります。まず本業ですが、ロボコンの経験から「製造現場に近い場所で設計と製造の両方を改善する仕事をしたい」と希望したところ、今の職場で受け入れて頂きました。高速回転体や高圧ガスを取り扱う技術的な面白さもありつつ、受注生産品に特有の、現場で現物に触れる泥臭い業務も自分に合っていたようです。本業の傍らで、趣味で空気圧パワードスーツなどの流体機械を自作していたところ、「魔改造の夜」の募集があり、思い切って手を挙げました。なかなか困難な企画で、社内の様々な壁を打破して刺激的なモノづくりができました（詳細は「IHI 魔改造の夜」で検索してください）。この経験から、興味があれば挑戦することに躊躇わなくなったような気がします。魔改造の後、共に戦った仲間とアート作品の技術支援を行うプロジェクトに参加し、銀座の資生堂ギャラリーでの展示を成功させることもできました。個人の活動をSNSで発信していたところ、建設用3Dプリンタを自社開発しているスタートアップ企業からお声がかかり、そちらで製品開発の兼業もしています。現在の多様な活動に至った理由は、熱意を注げること（私の場合は手を動かす創作活動）を社会人になっても辞めずに続けていたからだだと思います。そうすることで人や仕事の繋がりが産まれました。皆さまも何か熱意を注げることを見つけて続けてみてください。



## 上村 正樹

Masaki Kamimura

1988年 生産システム工学専攻 修了  
小林俊郎 研究室

1964年 愛媛県生まれ  
新居浜高専 卒業

1988年 川崎製鉄株式会社入社

2003年 JFEスチール株式会社(社名変更)

2013年 福山地区条鋼部 条鋼技術室長

2014年 倉敷地区鋼材商品技術部 形鋼室長

現在 建材企画部 主査

大学時代を振り返ると、友達との楽しい思い出と学会発表や修士論文が大変だったことを思い出します。しかし、その経験は会社に入ってすぐ活かすと実感しています。研究室での経験と周りの方のサポートのおかげで、大変な中でも楽しく仕事に取り組むことが出来ました。

年次が進むにつれて自分のやりたいことが出来るが増えていきます。一方、困難な状況を沢山経験することにもなります。設備の自動化がなかなかうまくいかなかった時に、自分のアイデアでブレークスルー出来たこと。工場長・副工場長時代に毎日のように大小のトラブルに駆けずり回りながら、それでも工場のメンバーと力を合わせて改善に取り組み、その度達成感を味わったことなどが思い出されます。

現在は、建材企画部に所属し、形鋼商品（H形鋼、鋼夾板、造船形鋼、レールなど）の品種戦略を担当しています。他部署との連携が多い部署です。心がけている事は、連携部署が動きやすい雰囲気づくりです。また、若い方には失敗を恐れず、自分で考え・実現させて達成感を体験して欲しいと思っています。

話は変わりますが、豊橋技科大のリクルーターを担当した時期があります。今の学生は就職前のインターンや工場見学などの機会が多く持てます。是非、色々な企業を実際に見て・聴いて、自分に合った企業や仕事と巡り会って欲しいと思います。

在校生の皆様、これからも大変な時期があると思いますが、乗り越えたときの喜びも大きいです。振り返ればきっと楽しい思い出に変わります。

「仕事は楽しく前向きに」で行きましょう。



## 長谷 高明

Takaaki Nagatani

2004年 機械システム工学専攻 修了  
畔上秀幸 研究室

1980年 石川県生まれ  
石川高専 卒業

2004年 トヨタ自動車株式会社 入社  
現在 同社 先進技術開発カンパニー  
先進モビリティシステム開発部 主幹

父親がクルマ好きで小さい頃からスーパーカーの絵本を読み聞かされながら育った影響でクルマ好きになり、高専機械科に進学しMTのバイクとクルマを乗りまわし、将来はクルマに携わる仕事がしたい、という気持ちから豊橋技科大を選びました。最初は知り合いのいない一人の豊橋でしたが、ガソリンスタンドでバイトし店長にサーキットに連れて行ってもらいながらクルマをいじったり、食堂のアカベラサークル募集張り紙を見てその場で電話して参加し友達を作ったり、同級生に水泳部に誘われ大会に出たりと、多くの人と出会い、話をし、いろいろ経験してきました。畔上研究室を選んだのは、クルマと同じくらいパソコンも好きで、当時Linuxでサーバーを組んでCAEを研究していたことに強い興味を持ったからでした。研究テーマは「大変形する弾性体の変形後形状を規定した形状同定問題」。大変形する弾性体、気になる方はググってみてください。私は大真面目に取り組みなんと卒業できました。その後縁あって今の会社に就職。就職後もリクルーターとして7年ほど技科大へ赴き、後輩を数名導くことができました。4年間しかいなかった大学でしたが、今でも語れる忘れられない濃密な4年間でした。技科大での経験・学びが雑草根性となり、何があっても乗り越えるようになったと感謝しています。そして、今こうしてこの文章を書く機会を与えてくれた先輩方と20年後も繋がりが、その繋がりが私がさらに先輩後輩に広げる機会を頂いたことにも感謝致します。今の学生たちへ伝えたいのは、多くのことに手を出して、経験と失敗を多くして、将来必要な時に思い出して生かしてほしいです。人に話せない失敗の経験と量は、学生しかできない武器です。今日より若い日はありませんので。



## 山本 義久

Yoshihisa Yamamoto

1989年 エネルギー工学専攻 修了  
日比昭・柳田秀記 研究室

1964年 静岡県生まれ  
浜松城北工業高等学校 卒業

1989年 アイシン・エイ・ダブリュ(株) 入社

2015年 同社 執行役員

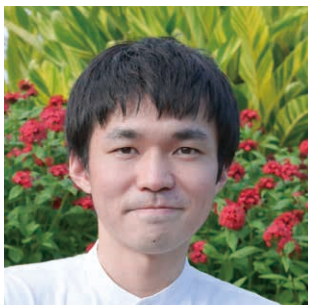
現在 (株)アイシン 取締役 CTSO

技科大での学生生活は研究室での一見「非効率」ではあるが仲間と過ごした研究室とパチンコ屋でのアルバイト、それらすべてが楽しく、ほろ苦く、一方でなんでもつたない時間を費やしていたのかと少しの後悔とともに懐かしさで一杯です。自身の低い能力と限界も知らずに、夢と情熱と希望に溢れ、怖いものを知らない貴重な青春時代をもっと有意義に過ごしたかったと思うことも時々あります。

しかしながら、あの雲雀ヶ丘での技科大時代に経験し、教わったいくつかのことは還暦を迎えた今になっても役立っています。たとえば、蒔田先生の言われた「アナロジー」すなわち類似性、すべての物理現象は一つの微分方程式「 $F=ma$ 」になるという話だったと思います。機械力学、油圧工学、熱力学や電気工学には相通じるものだと自分なりに実感しましたし、活用させて頂きました。

もう一つは、就職前の実験室で日比先生から唐突に言われた「山本、お前知っているか？社会に出ると難しい研究や法則よりも、大事なことは『エンジニアのセンス』だぞ。」です。当時は分らなかったのですが、20年余り会社で実務を経験する中で、その意味が自分なりに解釈でき、「エンジニアのセンスを磨け」つまり、経験の知識化が重要だというのが、今、自分が部下にも伝える「十八番」になっています。

多くの高専からの編入者と少数の高校卒の学生によって成り立っている技科大はある意味、特殊かつ異様ではありましたが、工学分野の実務に特化した卒業生が様々な分野で活躍されており、この特長を今後も続けて頂けたらうれしい限りです。社会に出ると、このような環境で育った私たちは希少で価値ある存在になれるはずだと今でも信じております。皆さん、それぞれの分野で活躍し、それぞれの人生を全うされることを祈念し結びとさせていただきます。



## 吉本 拓矢

Takuya Yoshimoto

2019年 電気・電子情報工学専攻 修了  
中村雄一 研究室

1992年 奈良県生まれ  
奈良高専 卒業

2019年 セイコーエプソン株式会社 入社  
技術開発本部 コアデバイス技術開発部 配属

2021年 日東電工株式会社 入社  
研究開発本部 光学技術研究センター 配属

現在 同社 主任研究員

奈良高専の電気工学科を卒業後、2012年に技科大に編入学しました。高専時代にご指導いただいた先生の勧めもあって、スピン・エレクトロニクスグループへの配属を希望し、博士後期課程修了まで磁性体に関する研究に取り組みました。また、テラレーメイド・バトンゾーン教育プログラム履修生として、異分野に関する講義や、様々な講師の方々との対話など、多くのことを学び・経験する機会に恵まれました。

博士後期課程修了後は、長野県にあるセイコーエプソン株式会社に入社しました。飽き性の私は「これまでの研究とは違うことがやりたい」と希望を出し、念願叶って、新規半導体レーザーの研究部隊に配属されました。配属初日に「何使ってもいいから、この論文の理論を使って、レーザー設計できるようにしてほしい」と言われ、分厚い半導体の本を片手に、プログラムと格闘した日々を今も鮮明に覚えています。

素晴らしい同期や先輩方に恵まれた職場でしたが、故あって転職し、現在は、豊橋にも事業所がある日東電工株式会社で、光学素子の研究に従事しています。豊橋事業所で勤務経験のある社員に技科大卒だと伝えると、かなり親近感を持って接してくれるので、豊橋市民に技科大生は好かれているのだと、卒業してから実感しました。

博士後期課程まで進学しながら、就職後は別の研究分野を選んだり、高専から一貫して電気・電子工学しか学んでこなかったのに、化学メーカーに転職したりと、振り返ると、我ながら自由に生き方・働き方を選んできたなと思いますが、それでも仕事のできているのは、大学時代に研究（仕事）に対する、基本的な姿勢や考え方を教えていただけたからだと思います。在校生の皆様も、友人との思い出づくりやアルバイトなど存分に謳歌しつつ、研究者・技術者の卵として成長できるように、多くのことを学び、挑戦してもらいたいと思います。



## 山内 慎也

Shinya Yamauchi

2001年 電気電子工学専攻 修了  
井上光輝 研究室

1975年 愛知県生まれ  
愛知県立小坂井高等学校 卒業

2001年 FDK株式会社 入社

2004年 ブラザー工業株式会社入社  
技術開発部に配属

現在 同社 ドミノ事業推進部  
プロフェッショナルエンジニア

1995年に普通高校から技科大の電気・電気工学課程に入学しました。大学・大学院時代の思い出としては、藤井・井上研究室での研究活動や学会発表が特に印象に残っています。外の方との交流の経験は、社会人になってから大いに役立ちました。

2001年から社会人になり、2004年からブラザー工業に勤務し、2015年までは研究開発部門でオプティカルデバイス・レーザー装置開発を行っていました。色々と苦労することも多く大変な面もありましたが、大学院時代に学んだ研究の進め方が、職務に大いに活かされました。

2016年からは技術者として開発した商品を展開する営業活動に従事しました。初めての営業活動で、コミュニケーションの取り方の重要性を痛感し、「知らない人にわかりやすく伝える」ということがこんなに難しいのか？という思いを持ちながら、相手に伝えるためのプロセスをしっかり考えて構成し、コミュニケーションをとることで成長できました。

2020年以降はグループ会社との連携や海外との仕事が増え、語学が課題となりました。これは今でも苦労していて、若い時にもっと努力をしておけば良かったと思うこともあります。重要なのは「これからどうするか？を考えると行動すること」であると思います。

振り返ると、若い時の活動はすべて役に立っていると感じています。在学生の皆さんには、勉強や遊びに全力で向かってほしい。そして社会人になって技科大の卒業生として大きく羽ばたいていただきたいと願っています。



## 秋山 正弘

Masahiro Akiyama

2004年 電気・電子工学専攻 修了  
集積回路・センサシステムグループ研究室(ICG)  
石田誠・澤田和明 研究室

1976年 香川県生まれ  
詫間電波高専 卒業

2004年 長野高専・電気工学科 助手  
2008年 長野高専・電気電子工学科 講師

2010年 同上 准教授  
2013年 デルフト工科大学(在外研究)※1年間

2022年 豊橋技術科学大学 高専連携准教授 兼任  
2024年 長野高専・電気電子工学科 教授  
現在 豊橋技術科学大学 高専連携准教授 兼任

1996年、詫間電波高専（現在の香川高専・詫間キャンパス）の電子制御工学科から技科大の電気・電子工学課程に編入しました。学部四年次に澤田和明先生の「見えないものを見る」という研究コンセプトに惹かれて、集積回路・センサシステムグループ（ICG）に入りました。同時に将来の進路を高専教員に定め、博士の学位取得を目標とし、研究活動に集中しました。進路決定は人生を左右する課題でしたが、自身にシンプルな2択の質問を定め答えを出しました。それは「“物”と“人”のどちらに興味があるか」です。私の場合は直感的に“人”だと判断し、職業も人財を育成する高専教員を選びました。これが、私にとって大きなターニングポイントとなりました。2004年に希望していた高専教員として就職が決まり、今年で20年の勤務年数を迎えました。

高専での学生教育は、大学時代の同期がくれた「学生の可能性をつぶさない」という言葉を胸に持ち取り組みました。高専生はとても優秀で、可能性に満ち溢れています。彼/彼女の興味や関心を引き出し、潜在的な能力を開花させられるよう取り組んできました。進学を希望する学生には、「可能性を伸ばしてくれる大学」を勧めています。もちろん私の推し大学は「豊橋技大」です。眠っていた私の能力を引き出してくれた本校が、私の教え子たちの可能性をもたせかけてくれると信じています。念願が叶い私と同じように「博士」に進学する学生も出てきました。現在は、豊橋技術科学大学・高専連携兼任准教授として、学生たちにいい刺激を与えられるよう研究・教育に取り組んでいます。みなさんに潜む「可能性」も、きっと今が伸び盛りです。良い師と仲間に出会い、切磋琢磨しながら未来を切り拓いてください。



## 泉 善弘

Yoshihiro Izumi

1982年 電気・電子工学専攻 修了  
服部和雄 研究室

1955年 香川県生まれ  
高松高専 卒業

1982年 四国電力株式会社 入社  
1994年 株式会社 四国総合研究所 出向  
1998年 学位取得

2001年 四国電力株式会社  
2015年 同上 定年退職後シニア社員  
2020年 同上 シニア社員満了  
現在 日本テクノ協会・日電協所属(自営業)

私は高松高専を卒業後、就職して1年足らずで、情報工学を勉強したいと考え退職した。その後、編入試験を受けてた際に、高松高専の教授から昭和53年度に技科大が出来るんだが、受けてみてはと勧められ、技科大の情報工学に編入しました。情報工学を学びつつ、プログラムを作るよりその素子である半導体に興味移り、大学院では電気・電子工学専攻に転じた。服部先生始め諸先生の指導のもと、InP(インジウムリン)を陽極酸化した素子を作成し、その特性をJ.Appl.Phys.に投稿し受理された。修士2年後半に、母から父が肝硬変なので大学院終了後は香川県内で就職してほしい旨の連絡があり、諸先生方今後の進路を相談し、地元の四国電力(株)に入社。最初の配属先は香川支店電力部送電所で送電線の保守を行う部署でした。その後、送電線の設計・建設部門の送電課、18万ボルトの送電線の設計・建設部門の超高压工事課と現場の様々な部門を経験後、本店送電部送電課に配属となりました。その時期、四国の山岳部で強風による送電線事故があり、全電力会社で山岳部の風観測と送電線の耐風設計の研究が始まっていました。平成6年に四国電力(株)の研究部門である(株)四国総合研究所に出向後、四国の山岳部の風観測と送電線の耐風設計研究に従事した際、上司から研究を論文にまとめるよう指導され、平成10年に学位取得しました。その後は出向解除で四国電力(株)に戻り定年まで勤めた後、5年間シニア社員を務め、65歳で満了退職しました。現在、四国電力(株)の業務経験を生かし電気管理技術者として業務に勤しんでいます。人生、困ったときには人との出会いで道が開けてきました。今は健康第一をモットーにして無理をせず、好奇心を持って、面白いことにはチャレンジしています。



## 三島 駿祐

Shunsuke Mishima

2021年 情報工学専攻 修了  
金澤靖 研究室

1996年 鳥根県生まれ  
松江高専 卒業

2021年 ダイキン工業株式会社 入社  
現在 同社 生産技術部

2019年に松江工業高等専門学校から情報・知能工学系に編入し、日々勉学に励んでいました。高専で専攻していた電子制御から専攻を変更したため、はじめの方は分からないことも多く苦労しました。ですが、友人や指導教員の金澤先生の支えもあり、楽しく研究生活を送ることができました。当時は、機械学習を利用した様々なサービス、製品開発の黎明期であり、機械学習は非常に注目されている技術でした。この分野に将来性を感じたこと、また純粋に技術自体に興味があったことから、未知の世界であった情報分野に飛び込みました。自分の興味のあることに積極的に挑戦する姿勢は、この時に身についたと思っています。

卒業後、2021年にダイキン工業株式会社に入社し、現在は生産技術という業務を担当しています。一般的にはあまり知られていないかもしれない業種ですが、生産設備には様々な最新技術が搭載されており、日々の情報収集が欠かせない分野です。研究で扱っていた機械学習を用いた画像処理は特にホットな技術であり、知識が役に立つ場面も多いです。この業務に携わる中で、私は学生時代に培った興味のある事に積極的に挑戦する姿勢が役に立っていると実感しています。

在学生の皆様には、興味のあることがあればぜひ挑戦していただければと思っています。学生時代にしかできないことは多いと今更ながら実感しています。今しかできない経験を大事にして、まずは何でも思い切ってやってみると、必ず新しい発見があると思います。そしてその経験を通して、自分の本当になりたいことを見つけていって欲しいと思います。



## 加藤 博明

Hiroaki Kato

1998年 機能・材料工学専攻 修了  
高橋由雅 研究室

1970年 広島県生まれ  
広島商船高専 卒業

1998年 豊橋技術科学大学  
知識情報工学系 助手

2005年 同 講師  
2010年 同 情報・知能工学系 講師  
2017年 広島商船高等専門学校 流通情報工学科 准教授  
現在 同 教授

広島商船高専・流通情報工学科2期生として卒業後、豊橋技科大・知識情報工学系3期生として編入学し、多様な背景知識を持つ仲間とともに学生生活を送りました。F棟の教育用計算機室で、巨大なCRTディスプレイの前で夜々夜々作業したのは良い思い出です。研究室のネットワークサーバなども文字通り手作り、実環境上で試行錯誤しながら学べたのは貴重な経験でした。

同窓会との関わりでは、学生時代に「研究室だより」の執筆（当時、急速に普及し始めていたWWW（研究室ホームページ）やメーリングリストの話題でした）が最初で、教員着任後は、旧7系（新3系）の役員としてホームページ管理や会報編集、周年記念事業等に携わってきました。その節は、多くの先生方・学生さん・卒業生の皆さまにも大変お世話になり、ありがとうございました。ちなみに、初期のF棟教育用計算機環境の話題が、同窓会報・第21号に掲載されています。ホームカミング日の開催や、この「技科大の顔」発行など、さらに活発に活動されていることを嬉しく思います。

現在は、縁あって、瀬戸内海の島にある母校で教鞭を執っています。技科大時代からの分子情報工学に関する研究を続けながら、過疎地域の小学生のためのプログラミング教育支援や、地域の魅力発信などの活動を研究室の学生らとともにこなしています。また、本校では次年度から高度情報人材育成を目的に、学科改組を含む大幅なカリキュラム改訂を行ないます。教員募集も行なっていますので、高専教育に興味のある方（若手もベテランも）がいらっしゃいましたら、是非ともお声がけいただけると幸いです。今後も、高専-技科大連携のお役に立てるように、学生さんとともに頑張ります！



## 福田 浩士

Hiroshi Fukuda

2001年 電子・情報工学専攻 修了  
宇野洋二 研究室

1973年 鳥取県生まれ  
米子高専 卒業

2001年 豊橋技術科学大学情報工学系 助手  
2001年 広島市立大学情報科学研究科 講師  
2009年 同上 准教授  
現在に至る

豊橋技科大には学生として7年間、教員として6年間、計13年間在籍し、学んだり教えたり、たくさん経験をさせていただきました。私が所属していた情報工学系（旧4系）はお隣の電気・電子工学系（旧3系）とのつながりが強く、ここでの学びを通して、情報工学と電気・電子工学の素養を身に付けることができました。

私は現在、広島市立大（以下、市大）情報科学部医用情報科学科（以下、医用）で教員をしていますが、豊橋技科大から移った当時はまだ市大に医用は存在していませんでした。5年くらい経った頃、新学科を設立することになり、中心メンバーとして学科の設計に携わりました。その頃の市大の教育はどちらかというとソフトウエア寄りだったため、新学科ではハードウエアの素養も持った技術者を育成するために、電子・情報工学を主軸とした教育がしたいと主張し、カリキュラムを設計しました。最終的には、それに「医療への応用」が加わった学科となりました。このように、「市大の医用は豊橋技科大での学びがなければ生まれていなかった」と言っても過言ではありません・・・と勝手に思っています。

私が高専や技科大で学んだのは20年以上も前になりますが、その頃に幅広く学んだことが、少なからず現在の大学での研究・教育に役立っています。在学生の皆さん、多くの知識を吸収できる若いうちに（勉強に限らず）色々学んでおくと、将来きっとどこかで何か役に立つ時が来ます。豊橋技科大という素晴らしい環境での学びを楽しんでください。皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。



## 真鍋 克也

Katsuya Manabe

1989年 情報工学専攻 修了  
宮崎保光 研究室

1964年 香川県生まれ  
詫間電波高専 卒業

1989年 詫間電波工業高等専門学校  
情報通信工学科 着任

2009年 統合再編により香川高等専門学校  
通信ネットワーク工学科  
現在 通信ネットワーク工学科 准教授

同期生の祖父江真一氏からバトンを受けました。私は詫間電波高専を卒業後、情報工学課程に編入学しました。高専時代は水泳部でしたが、技科大にはまだプールも水泳部もありませんでしたので、サーフィンを始めました。毎朝、小島や伊古部の海岸へ、波の良いときには1コマ目の授業をサボったこともありました。4年の研究室選択は宮崎研究室で、電磁波の散乱問題を研究しました。博士後期課程に進んでいましたが、母校の恩師の急死により、平成元年の10月に詫間電波高専情報通信工学科に着任しました。水泳部の顧問に就き、様々な役目を経験しました。平成21年高度化・再編により、独立行政法人国立高等専門学校機構香川高等専門学校になりました。所属は通信ネットワーク工学科となりました。現在はその学科長をしております。通信ネットワーク工学科では、2026年4月採用の情報系教員を募集する予定です。興味ある方は私に問い合わせいただくか、香川高専の公募情報に注目ください。

私生活の方ではマスターズ水泳を続けていましたが、2001年から、ダイエットがきっかけでマラソンも始めました。当初はタイムを追い求めて走っていましたが、サブスリーを達成してからは長い距離に挑戦するようになり、平成29年に山口100萩往還マラニックで250キロ完踏を果たしました。今年、この原稿を提出直後に276キロの大会に挑みます。

同窓生、教職員、在学生の皆様のご発展を願っております。





## 坂口 卓司

Takushi Sakaguchi

2012年 エコロジー工学課程 卒業  
後藤尚弘 研究室

1989年 大阪府生まれ  
大阪府立高専 卒業

2012年 神戸大学 人間発達環境学研究所 入学

2014年 神戸大学 人間発達環境学研究所 修了

2014年 民間企業 入社

2018年 省エネアシスト 創業  
現在に至る

「原稿をお願いできますか?」そんな依頼が同郷の先輩からやってきた。「正直、俺でいいの?」という感覚もあったが、母校のため快諾させていただいた。私は、(故)大竹一友先生の教え子の勧めで、2010年にエコロジー工学課程(以下8系)に入学し、以後は、後藤先生をはじめ、旧藤江研の系統でお世話になりました。専門分野は、環境システム工学・LCA(Life Cycle Assessment)で、後者は今まさに企業がScope1,2,3等で扱う分野です。強く印象に残っているのは、実務訓練で、実施機関は某市役所でした。世間から風当たりが強い住民説明会では怒鳴られ謝り、23時帰宅もザラ、通勤のため実家から借りた車は故障、楽しみは若手職員との合コンが数回?すべてが文字通り「訓練」になりました。今も新幹線で豊橋通過時に海側を振り向くのは思い返すことがあるから?

当時、8系が化学系と統合されることもあって、修士課程は他大学へ進学させていただきました。同分野の研究を続け、民間企業勤務を経て、2018年、省エネコンサルを創業しました。現在業務は、工場ビルの省エネ計画・設計(電気・管・計装)と省エネ補助金の指南役、国・地方公共団体の省エネ調査事業、公的機関の委員です。現場で人・モノを相手に汗をかき実践する仕事です。世間は学力を重視しがちですが、人間力・熱量がモノをいうときがあります。社会に出て思うのは、8系の1丁目1番地は省エネ(熱・電気)で間違いないはずです。同系の末裔の1人として、社会からの省エネ相談・対応を継続しています。

最後に学生の皆様へ、名だたる大学が多い中、ロゴコン3連覇お見事でした(出身高専も2連覇中)。微々たる寄付金という形でございますが応援しております。本稿掲載の推薦を頂戴しました先輩方へ感謝を申し上げます。



## 本田 建一

Kenichi Honda

2008年 エコロジー工学専攻 修了  
木曾祥秋 研究室

1984年 愛知県生まれ  
愛知県立豊丘高等学校 卒業

2008年 株式会社イズミテック 入社

2008年 同社 環境技術部 配属

2012年 同社 営業部環境課 転属

現在 営業部環境課 チームリーダー  
兼 ESG企画室

豊橋の普通科高校を卒業した私は、僅かながらに興味を持っていた「環境」と「化学」というキーワードを手掛かりに技科大に進学しました。環境工学を学べるエコロジー工学を専攻し、排水の浄化に取り組む研究室では、浄化の指標となるデータ取りのために、様々な試薬・分析装置を使って化学分析をしていました。私にとっては、この分析作業が非常に面白く、「仕事にするならコレだ!」と思い、地元豊橋にある環境測定分析の会社に就職しました。

入社当時は希望していた測定分析を担当する技術部門に配属されましたが、数年後に営業部への異動を命じられました。就職活動当時、営業という職種は絶対にやりたくないと思い、真っ先に除外していたため、まさか自分自身が営業という職に就くなど想像もしていませんでした。口数の少ない私には不向きなのではないかと相当悩んだ時期もありましたが、最前線でお客様の課題解決に向き合えることは、非常に楽しくやりがいを感じます。私が内向的な性格であることを知っている両親や姉からは、「あなたが営業なんて大丈夫なの?まだ続けるの?」と未だに言われますが、当の本人は意外と楽しくやっていたりします。現在は技術営業的な立ち位置で、顧客への新たな分析測定の提案、分析測定結果の説明をしながら、展示会への出展やウェブページ制作などの広報業務にも携わっています。

大学を離れてからも、実は年に数回、仕事で技科大を訪れています。在学当時の思い出しながら構内を歩いていると、とても感慨深いものがあります。先生方からご依頼いただく分析を通じて、僅かながらでも母校に関わり力になれることを光栄に思います。これからも心から技科大を応援しています。



## 青木 博則

Hironori Aoki

2011年 エコロジー工学専攻 修了  
水野彰・高島和則 研究室

1987年 長崎県生まれ  
長崎日本大学高等学校 卒業

2011年 株式会社富士通ゼネラル 入社

現在 技術開発部 マネージャー  
兼務 エアロシールド株式会社 取締役

はじめに、この執筆という貴重な機会をいただき、当時お世話になった先生方や仲間たちとの思い出を振り返る時間を持たせてことに深く感謝いたします。

私は他大学から編入してきたのですが、振り返れば、技科大で過ごした2年間は、人生で最も充実した時期だったと感じています。学生宿舎から研究室まで徒歩1分という恵まれた環境で、昼間は先生方の丁寧なご指導を受け、夜は学内のサカキパークで仲間たちとBBQを楽しむという、朝から晩まで濃密で幸せな毎日を送っていました。その日々は、今でも鮮明に思い出されます。

大学院卒業後は、自身が花粉症だったことをきっかけに、「花粉をなくせる空間を作りたい」という夢を抱いて空調メーカーに就職しました。現在は、空調機の空気質改善技術の開発に取り組んでおり、空気中の埃を除去する技術や、空調機内のカビを抑える技術の製品化を進めています。自分が関わった製品が実家や自宅に設置される瞬間は、家電開発者としての大きな喜びであり、特に空調機の場合、室外機がふと視界に入るたびに小さな幸せを感じられるのが魅力です。最近では、子会社の役員を担う機会をいただき、一技術者という立場を超えた新たな挑戦をしています。社員の生活を支え、会社の価値を高めるといった経営者目線での仕事は日々試行錯誤の連続ですが、ものづくりの楽しさを社員と共有しながら、前向きに取り組んでいます。

最後になりますが、目まぐるしく変化する現代ではありますが、大学時代に学んだこと(研究や仲間との関係)は、必ず社会に出てから役立ちます。どうか残された学生生活を思い切り楽しみ、未来への力にしてください。



## 田邊 秀二

Shuji Tanabe

1984年 物質工学専攻 修了  
小寺嘉秀・上野晃史 研究室

1959年 福岡県生まれ  
久留米高専 卒業

1984年 長崎大学教養部 助手

1990年 工学博士(豊橋技術科学大学)取得

1992年 長崎大学教養部 助教授

1997年 長崎大学工学部 助教授

2009年 長崎大学工学部 教授

現在に至る

豊橋技術科学大学を修了して、40年が過ぎ、長崎大学での教員生活もあと数年で終わろうとしています。豊橋時代から現在までの44年間の雑感を記載します。

私が豊橋技術科学大学に編入したときは、まだキャンパスの一部は赤土があり、造成中でした。グラウンドもまだ完成しておらず、芝生を敷いたあとの養生中で、グラウンドは使用禁止でした。寮から毎日グラウンドを眺めていたおかげで、視力が良くなりました。

大学院を修了し、長崎大学に就職した当初は、教養部の助手でした。大学に編入したせいで、4年制大学の教養部というところをよく知らず、最初は組織や教育システムを理解するところから始まりました。教養部の化学教室の先生方は全員博士をもっており、自分も博士を取るために、学生時代と同じように毎日研究に励みました。その経験が、教養部が廃止となり、工学部に籍を移したあとに卒研究生や大学院生を指導することとなり、大変役に立ちました。長崎大学では、当時の教授や周辺の先生方に大変お世話になりましたが、研究は、豊橋時代に経験した超微粒子触媒(今はナノ粒子)の調製法や研究室の先輩後輩同僚が行っていた研究テーマが大変役に立ちました。当時指導していただいた上野先生のついで岡崎にある分子科学研究所に受託学生として通い、X線吸収スペクトル装置の開発の一部を手伝いました。この経験が、後にSPring-8での実験につながりました。

豊橋技術科学大学に在籍したのは、ほんの4年間でしたが、若いということもあり、濃厚な時間でした。自分の研究生生活の原点であり楽しい時間でした。今在籍している後輩諸君も濃厚な時間を過ごして、未来の自分の基礎を作ってもらいたいと思います。



## 高根澤 武

Takeshi Takanezawa

2009年 建設工学専攻 修了  
宋城基 研究室

1984年 静岡県生まれ  
沼津高専 卒業

2009年 株式会社日建設計 入社  
現 在 同社 アンシエイト

私が今日どのような作業をしていたかをお伝えしたいと思います。あるプロジェクトにおいては「これから東京都内某所に新築する建築物に対し」執務者のWell-being向上」に寄与する照明計画」の検討。別のプロジェクトにおいては「超大規模建築物に対し、災害等のインフラ途絶時にどのような電気・空調・水などのバックアップを用意しておくべきか」の議論。また別のプロジェクトにおいては「会議室の壁に設置するコンセントは、こちらの側面の壁のほうが良いのでは」という打ち合わせ。複数のプロジェクトを抱え時間単位で作業を切り分け、何十万㎡の建築の設備計画に悩んだ10分後には、10㎡の会議室のコンセント配置に悩んでいました。私は豊橋技術科学大学を卒業後、日建設計という建築設計事務所で15年間、小規模～超大規模建築物の設備設計に携わっています。

在学時は建設工学の環境系研究室に属しており、宋城基先生、松本博先生にご指導いただきました。当時は周囲の同級生の研究含め「この卒論・修論はどのように社会に役に立つのだろうか」と疑問に思うことがありましたが、それらの研究の一部が実際に世の中に認知され、建築物に導入されていくのを建築業界の最前線で目の当たりにしています。技科大の先生方の先見の明には非常に驚かされるとともに、次の未来に向けて今は何を研究しているのだろうと気になっています。

色々な仕事、色々な道がありますが私が言えるのは「社会に出て活動するのは非常におもしろい!」ということです。時には立ち止まったり、無力に感じたりすることもあるかもしれませんが、いろいろ経験して前に進んでいきましょう!

皆様とも一緒に活動ができるご縁が来るよう、心待ちにしています。



## 飯田 稔

Minoru Iida

1996年 建設工学専攻 修了  
加藤史郎 研究室

1970年 愛知県生まれ  
豊田高専 卒業

1996年 日本国土開発株式会社 入社

2000年 学校法人順天堂 入職

現 在 同法人 再編事業事務局 次長

今回、執筆依頼を受け、叔父の後を追うように豊田高専へ入り、高専の指導教官の勧めで技科大へ編入学して、研究室で構造解析プログラムのコードをにらめっこする日々を過ごしていたことを懐かしく思い出しました。

院生時代を振り返ると、恩師加藤史郎先生は、研究に心血を注がれて、今でも「研究は戦争だ」と赤字のメモ書きが脳裏に鮮明に残っています。私自身、内向的な性格で、研究室になかなか馴染めなく恩師、研究室の皆様にご迷惑をおかけしましたが、温かい先輩方のおかげで、楽しい研究生活が送れました。

社会に出てからは紆余曲折しながら、今の職場に入職してまもなく25年が経過しようとしています。主な業務は、医学・スポーツ分野に関わる施設計画のプロジェクトマネジメントで、学内の様々な分野の医療関係者の思いを紡ぎ、建築の専門家と一緒に形にするプロデュース力が重要になります。学生時代のバックグラウンドとは大きく異なり、全く経験のない領域で、知識、ファシリテーション、リスク管理等を昇華させていかないと押しつぶされる、そんな状況に追い込まれましたが、その経験のおかげで、現在の社会活動(日本医療福祉設備協会:理事、ガイドライン主査、学会副学会長)につながっています。

今振り返ると、逆境の中、押しつぶされなかったのは、院生時代に培った「プログラミング思考」「越境学習」にあったのではと思います。特に、プログラミングは、結果を見越して仮説を立て、計算負荷をかけないコードを思考して、バグ取りをして解を導く、まさにバックキャストの基本が詰め込まれていて、その思考は、幾度となく降りかかる困難に立ち向かう術の礎になりました。

最後に私の好きな言葉で終わりたいと思います。「異能であれ」



## 中平 恭之

Yasuyuki Nakahira

1999年 建設工学専攻 修了  
廣島康裕 研究室

1974年 愛知県生まれ  
熊野高専 卒業

1999年 株式会社新井組 入社

2001年 近畿大学工業高等専門学校 助手

2004年 同校 講師

2009年 同校 准教授

2021年 同校 教授

現 在 同上 校長補佐・都市環境コース長

1995年に熊野高専土木工学科(現 近大高専都市環境コース)を卒業後、技科大の建設工学課程に編入学しました。当時、熊野高専からの編入学先は豊橋・長岡の両技科大と熊野高専が近畿大学の付属校だったこともあり近畿大学を含む3校しかなかったと記憶しています。豊橋技科大に進学を決めたのは高専時代の恩師から「ウチからは豊橋技科大の建設にまだ誰も行ってないから行って見ないか」と誘われたことがきっかけです。そのように決めた当時の技科大は各高専を首席で卒業した学生が多く、大学院修了まで周りの友人から多くの刺激を受けましたし、多くの学びがありました。在学中は交通計画研究室に在籍し廣島先生のご指導のもとで研究に取り組み、近大高専着任後も廣島先生のご指導のもと数年かけて博士(工学)を取得しました。廣島先生から研究に向き合う真摯な姿勢をご教授いただいた経験はその後の私の研究者としての礎となりました。また、この頃には切磋琢磨した多くの友人もできました。

「人との出会いを大切にしろ」と小さいころから父親に何度も聞かされてきましたが、振り返ってみると友人や恩師との出会いには非常に恵まれてきたと思います。現職の近大高専へは、技科大への編入学を勧めた高専時代の恩師から誘っていただいたことで着任することになりましたし、これまで続けてこられたのも恩師の先生方との貴重な出会いがありご指導いただいたからです。また、多くの友人には様々な場面で数えきれないほど助けてもらいました。在学生の皆さんにも、また今年から豊橋技科大にお世話になっている私の長男にも、多くの人との出会いを大切にしてもらいたいですし、皆さんにとって素敵な恩師や友人との出会いがあることを願っています。



## 永柳 宏

Hiroshi Nagayamagi

1989年 建設工学専攻 修了  
紺野昭 研究室

1962年 愛知県生まれ  
岐阜高専 卒業

1989年 株式会社総合研究所 入社

2009年 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 兼 部長

2017年 同社 副本部長

2022年 同社 退社

現 在 愛知大学特別客員教授、清光学園理事、  
愛知淑徳大学非常勤講師、MURC客員研究員

大学卒業後、金融系シンクタンクにて、都市計画のコンサルティングをしていましたが、60歳の定年退職を機に、先輩方や先生方のご縁があり、現在は、複数の大学にて教員、理事等をしています。大学では、授業・ゼミを行うことになり、若い学生らとともに、建築・都市計画の分野で、改めて、勉強を直しているという毎日です。会社員として仕事をしていた時は、あまり自覚していなかったのですが、教員として学生に向き合うとき、自分はどうやって学んできたかを、反省を含めて振り返ることも多く、高専から豊橋技術科学大学で学んだことが、自分のキャリアのベースになっていたと強く感じます。また、旧友をはじめ大学OBネットワークが大きな財産であることにも気づかされます。一方、幅広い分野にも関心がある若い学生らには、自分のキャリアからの知識・実務経験の伝授型授業では伝わらないことも多くあります。自分にとっても、新しい領域に敢えて取り組み、学生らとともに学ぶ姿勢、探求する時間を共有することを心がけています。その時に思い出すのは「専門バカになるな」「地域から考えろ」「自分以外の専門家からの意見をよく聞け」といった恩師の故・紺野昭先生からの言葉の数々です。

大学での学びには、多くのものがあると思いますが、この年齢になって改めて感じるのは、知識・技能を超えた「姿勢や考え方」の大切さです。今年の夏休みには、学生らとコンベンにも取り組みました。若い学生らとともに、これからも新しい分野に挑戦していきたいと考えています。



ゼミ現地調査の開始風景